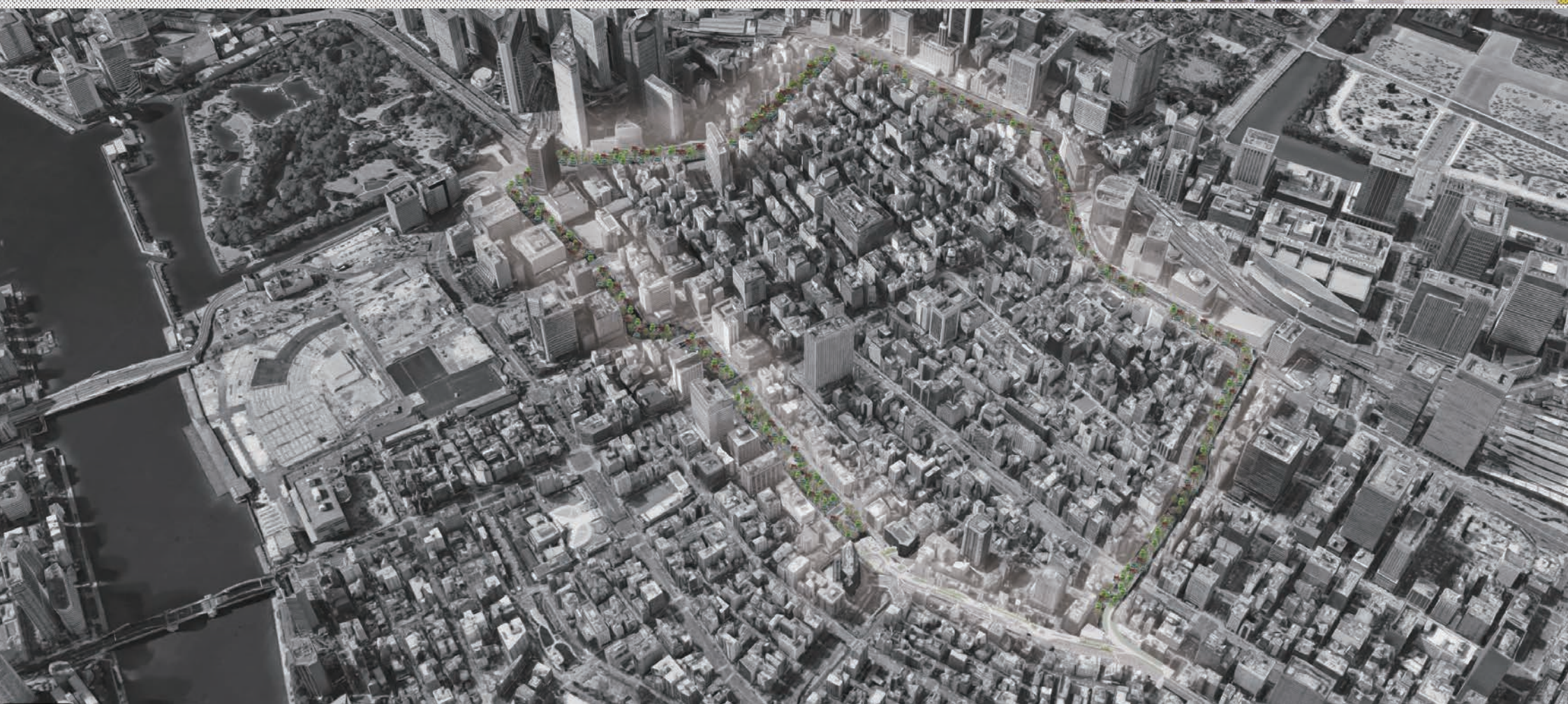


都市が醸し出す愉しさ

— 批判的地域主義の考えを軸に庁舎を中心とした公共空間の価値の再定義 —



1 はじめに

昨今のコロナ禍への対応により、日本の社会状況は大きく変化している。建築の在り方も影響を受ける。他国大都市に比べ、外出自粛が徹底され、人ははたして空間について考え直した。しかし、都市の公共空間を利用する人々は、目的を待たず特定の場所を使用している。言い換えれば、人は目的を持たない場合、自宅以外で気軽に利用できる場所が少ないと言えるだろう。また、都市におけるオープンスペースも均質化しているように思える。街区整備された街の建物は、道に対して規則正しく並び、秩序を作っている。そのため、都市における地域性は徐々に失われつつある。一方、今もなお都市が醸し出す愉しさが残っているものもある。このような状況を考慮し、これからの公共建築の在り方を改めて考え直す。また、整備された都市の中で、現在も醸し出される愉しさを残していく。

現在の庁舎建築の現状

地域住民にとっての公共建築である庁舎建築に着目する。庁舎建築は機能と効率を重視した構成である。しかし、人口及び部署の増加や想定外なコロナ対応の事態により、面積が逼迫している。庁舎は、地域住民の生活に必要とされる場所である。本計画では東京都中央区築地に位置する中央区庁舎を対象に、このような状況下での、庁舎建築を中心とした、これからの公共建築、都市空間について提案する。

既存庁舎の床面積 22000㎡	本計画
↓	↓
中央区の定める 新庁舎の想定床面積 30000㎡	既存庁舎の床面積 22000㎡ + 新築部分の床面積 8000㎡ = 合計床面積 30000㎡

中央区役所本庁舎

中央会館（銀座プロッセム）

設計者：佐藤武夫
昭和48年（1973）年度竣工
敷地面積：1,576㎡
用途地域：商業地域
建築率：80パーセント
容積率：600パーセント
防火地域：防火地域
地区計画：築地地区地区計画
日照規制：対象外

東京都中央区築地に位置する既存庁舎は現在建て替えを検討している。一方で、既存の庁舎建築は中央区のシンボル的存在として建築株式会社によって再開発される。そこで、本計画では、既存庁舎を残し、都市空間に空きを生かすための再開発を行う。また、新築部分は中央区の歴史を配慮し、床面積8000㎡の建物を計画する。

設計者：佐藤武夫
昭和48年（1973）年度竣工
敷地面積：1,576㎡
用途地域：商業地域
建築率：80パーセント
容積率：600パーセント
防火地域：防火地域
地区計画：築地地区地区計画
日照規制：対象外

区庁舎建設の際に取り壊された京橋公会堂及び旧中央会館を統合し、僅か1,576㎡の敷地の中に、900人収容のホール、結婚式場、会議室等を盛り込んだ複合施設として設計された。

コロナ 地域性

東京都中央区庁舎及び周辺公共施設、近接する首都高速道路上部を計画敷地と設定する。中央区庁舎は、老朽化や危険化により、2018年に中央区本庁舎整備推進委員会が設立され、庁舎の建て替えが検討されている。庁舎の向かい側には、ホールと結核式場を兼ねた中央会館（銀座プロッサム）がある。また、中央区を走る首都高速道路の地下化にあたり、高架上部の緑化計画が検討されている。これらを一体として都市の公共空間を計画する。

設計手法

建物の近代化により、都市空間は徐々に均質化しているように見え、特徴のある地域性は失われつつある。そこで、イギリスの建築史家ケネス・フランプトンの批判的地域主義の思想を軸に、都市と現在共存する東京の地域性の均衡を保ちながら、新たな都市空間を構築する。



フィールドワークとアーカイブ

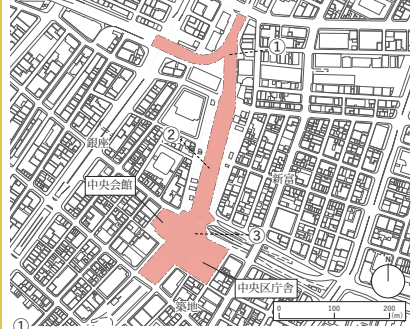
中央区庁舎周辺の築地、銀座、新富の一部街区をサンプリングした計61枚のフィールドワークシートにスケッチなどで都市が醸し出すゆかしさを感じる部分をきき込みアーカイブする。

写真分析

フィールドワークで撮影した写真から都市が醸し出すゆかしさを感じる写真計266枚をA～Mのキーワードに類似する物を選定し分類する。これにより、どのキーワードにゆかしさを感じるか、比較し比率的に可視化することができる。また、築地、銀座、新富、首都高・旧築地用の各エリアでの特色が写真の枚数から把握することができる。

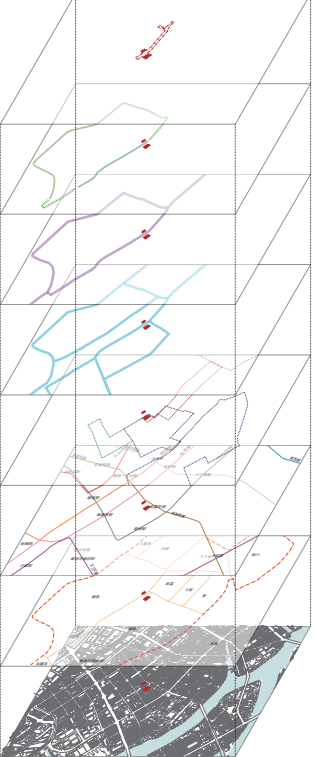
A. 余白		B. 緑		C. ずれ		D. 道		E. 高低差		F. 隙間		G. 人		H. 建物		I. 素材		J. 外席		K. 移動手段		L. 広がる視界		N. 公共施設		M. その他		
写真	写真	写真	写真	写真	写真	写真	写真	写真	写真	写真	写真	写真	写真	写真	写真	写真	写真	写真	写真	写真	写真	写真	写真	写真	写真	写真	写真	写真

計画敷地と現在の状況



現在の中央区庁舎と中央区会館（銀座プロッサム）。三吉橋の上からこの二つの建築を見えるようにする。三吉橋の上からこの二つの建築を見えるようにする。三吉橋の上からこの二つの建築を見えるようにする。

築地周辺のコンテキスト



現在の中央区庁舎と中央区会館（銀座プロッサム）。三吉橋の上からこの二つの建築を見えるようにする。三吉橋の上からこの二つの建築を見えるようにする。三吉橋の上からこの二つの建築を見えるようにする。

計画敷地

計画エリア面積：約27,800㎡
用途地域：商業地域 建築率：30% 容積率：400%
敷地地域：築地地域
地区計画：築地地区地区計画、銀座地区地区計画、新富地区地区計画

中央区首都高速道路緑化計画

現在中央区では、首都圏日本橋区間の地下化の計画に伴い、廃止する高架上の緑化（仮称緑化計画）や、既に地下部分に存在する首都圏（仮称緑化計画）の地下1〜4階に人工遊歩道を設け緑化する計画（築地用アムニティ計画）が検討されている。この3つの計画を統合しアップデートすると、中央区築地地域に円環状の緑道が出現する。

首都高速都心環状線の一部

東京都の都心環状線の一部を首都圏の一部環状線としている。主に各駅間同士を接続する役割を担う。築地周辺は旧築地用を含めた利用を前提とした緑道を利用した手段で構築されており、既存の首都圏環状線に準じた設計が求められる。この3つの計画を統合しアップデートすると、中央区築地地域に円環状の緑道が出現する。

築地川を含む旧河川

元々この地域には築地川を含む旧河川が流れていた。川を寄り添った生活が行われていた。

江戸バス路線図

中央区役所を起点として、「北馬場」及び「南馬場」の2ルートがある。北馬場線：中央区役所→築地駅八重洲北口→新日本橋駅→浜町駅→本町駅→日本橋区民センター→中央区役所 南馬場線：中央区役所→築地駅八重洲北口→新日本橋駅→浜町駅→本町駅→日本橋区民センター→築地三丁目→豊洲駅→豊洲駅→中央区役所

東京メトロ路線図

中央区庁舎周辺には多くのメトロが通り、最寄り駅は有楽線新富駅や日比谷線築地駅であり、既存のインフラが充実している。

中央区京橋地区

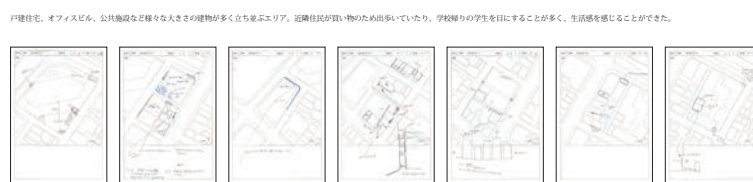
八重洲二丁目・京橋地区、銀座・銀座西地区、銀座東地区、新富地区、築地地区、八丁堀地区、新富地区の7角地区から成り立っており、本計画敷地は、築地、銀座、新富の3つの街区に隣接している。

東京都中央区

中央区は大きく分け、京橋地域、日本橋地域、月島地域の3つの地域で成り立っている。街区によって様々な文化や歴史が色濃く残っている。

フィールドワークシート

築地エリア



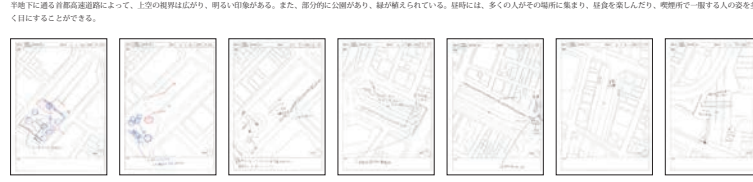
銀座エリア



新富エリア

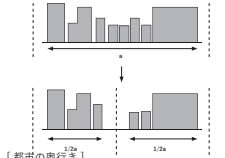


首都高速上部・旧築地川エリア

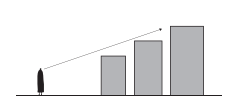


都市空間分析

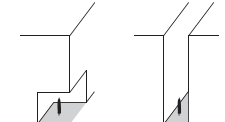
【変化するキャラクター】



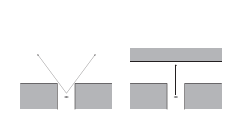
【都市の奥行き】



【小さな余白】



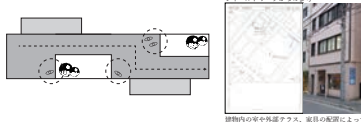
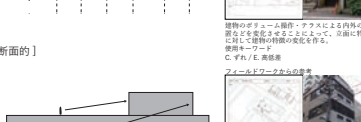
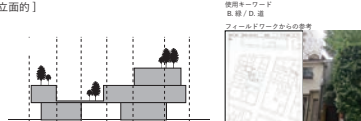
【視線の抜けと行き止まり】



都市空間構成要素



建築空間構成要素



使用キーワード
D. 道
フィールドワークからの書き
ゆかしさを感じる街区は、各の街区に特徴があり、街並みも変化していき

使用キーワード
C. ずれ / E. 高低差
フィールドワークからの書き
建物の高さが変化するところによって、建物のレイアウトは多岐にわたる。これにより、都市空間に奥行が生まれ、ゆかしさを感じることが多い。

使用キーワード
A. 余白 / G. 人 / J. 外席
フィールドワークからの書き
建物に囲まれた、使われた空間を人は自分の空間と認識する。その空間に人が行き来する機会が多ければよい。

使用キーワード
D. 道 / H. 建物 / L. 広がる視界
フィールドワークからの書き
建物の高さや間隔の広がり、階段のずれによって生じる視線の行き止まりが生まれる。それにより、場所感によって空間が潤いやすくなる。

立面的
使用キーワード
B. 緑 / D. 道
フィールドワークからの書き
建物のボリューム、テクニクによる内外の変化、緑地の配置などを考慮することによって、立面に特徴が生まれ、街並みに個性が生まれる。

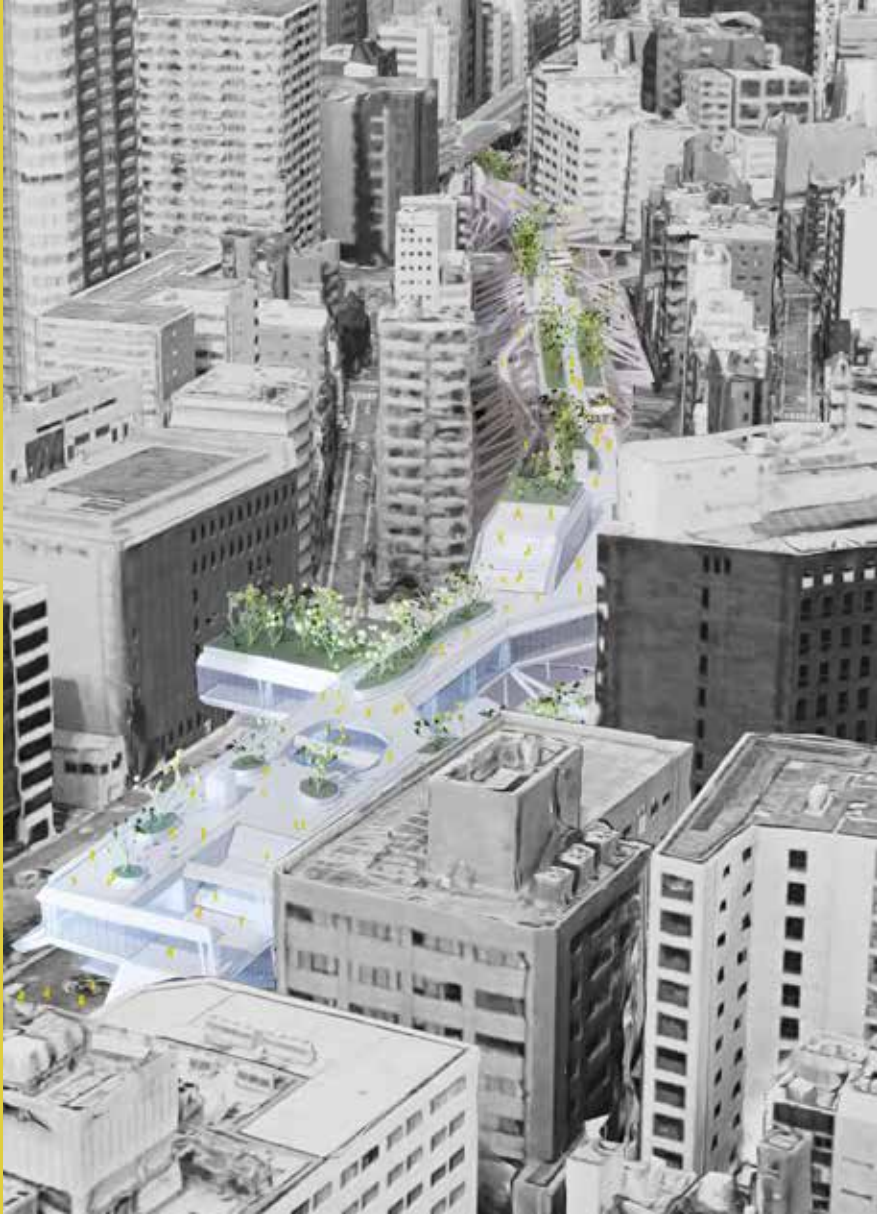
断面的
使用キーワード
A. 余白 / G. 人 / F. 隙間 / G. 人 / J. 外席
フィールドワークからの書き
建物のレベル差を考慮することで、人の視線はずれ、また歩行のしやすさや安全性も生まれる。これによって、空間に上り下りや変化が生まれ、建物にゆかしさや個性が生まれる。

平面的
使用キーワード
A. 余白 / G. 人 / F. 隙間 / G. 人 / J. 外席
フィールドワークからの書き
建物内の平面レイアウト、家具の配置によってルーメンやスペースが生まれやすくなる。また、歩行のしやすさや安全性も生まれる。これによって、空間に上り下りや変化が生まれ、建物にゆかしさや個性が生まれる。

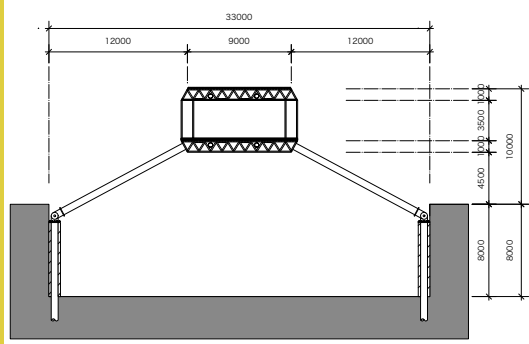
視覚的
使用キーワード
D. 道 / H. 建物 / L. 広がる視界
フィールドワークからの書き
建物の高さや間隔の広がり、階段のずれによって生じる視線の抜けや行き止まりが生まれる。それにより、場所感によって空間が潤いやすくなる。

構造と構成

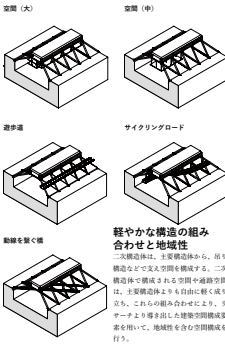
主要構造体は、地下に位置する首都高の上部に斜め柱でチューブ状の空間を支える構成とした。二次構造体は、用途や場所に合わせた空間や通路を主要構造体から吊り構造などで支える。



主要構造断面図



二次構造体の多様性



構造技術と空間構成
首都高道路の上部に斜め柱でチューブ状の空間を形成し、チューブ状の空間を斜め柱が支える。人工地盤のように半地下部分を削いでしまうのではなく、首都高の存在を残すような構造デザインとする。このチューブ内の用途は主に庁舎機能を含む。よって、機能性を重視した構成となっている。

軽やかな構造の組み合わせと地域性
二次構造体は、用途や場所に合わせた空間や通路を、吊り構造などで支える空間を構成する。二次構造体で構成される空間や通路空間は、主要構造体から自由な構成が可能。これら組み合わせにより、リサーチより導き出した建築空間構成要素を用いて、地域性を含む空間構成を行う。

構成要素と建築用途

